

歯科技工士
黒崎 大介さん

Daisuke Kurosaki

大分市在住の歯科技工士。大分県歯科技術専門学校を卒業後、県内の歯科技工所に勤める。2008年独立し、歯科技工所 株式会社クリエーションを設立。2016年にエピテーゼ製作室を開設し、様々なエピテーゼ製作をおこなっている。

【取材協力】
株式会社 クリエーション
☎090-9476-6298 ✉z9633@q.vodafone.ne.jp



interview

まずは知って欲しい。 人工ボディー『エピテーゼ』。

事故や病気で身体の一部を失った方々のための人工ボディー『エピテーゼ』を製作・販売する『株式会社クリエーション』は、九州でも珍しい存在の工房。ここで、指や手など身体の様々な部位を製作しているのが、歯科技工士の黒崎大介さん。

「子どもの頃から、ものづくりが好きでした。」中学2年生の頃には、大好きな造形に関わりながら、誰かの役に立つことができる「技工士」となり会社を興すという夢を持っていた黒崎さん。夢に向かって進み続け、歯科技工を学べる専門学校へ進学。その頃エピテーゼに出合った。「技術や医療の知識以外にも、美的センスも求められるエピテー

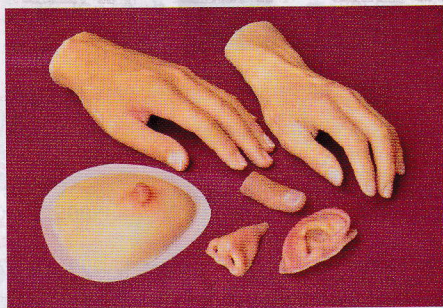
ゼは、国家資格をもつ歯科技工士が担うことも多いのですが、九州にエピテーゼの会社はなく、情報もありませんでした。「心のどこかで携わりたい」という気持ちを持ちつつ、県内の歯科技工所に就職。

工房を立ち上げるきっかけが訪れたのは2016年夏。「自分と同じ歯科技工士の方が、エピテーゼをやっている」という記事を見たんです。これだ、と思うすぐに連絡しました。「群馬県の実績ある歯科技工士の元に毎週末通い、技を学んだ。金銭的にも体力的にも非常に大変なはず。だが「まったく辛くなかったですね。本当にすべてが楽しかったです！」と話す黒崎さん。「大好きな造形で誰かの役に立ちたい」という強い思いが力になったという。また、決して一人だったわけではなく、専門学校時代から同じ道を歩む奥様の存在も大きい。「今も同じ歯科業界にいる妻の理解や支えがあったからこそ、できたことだと感じています。」こうして昨年9月、ついに工房をオープン。

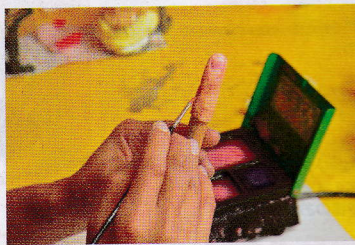
エピテーゼ製作は、患者さんの相談から始まる。「周りの目が気になり、生活の中で気を遣う」という方や、「小さい頃、事故で指を失った娘のこと」がずっと気になっていた「妻への贈り物に、指を作って

あげたい」など、家族のことを思いつける方々の様々な事情を親身になつて聞き、「何を求められているのか」を理解し、制作する。「ただ作れば良い」というわけではないんです。肌の色や赤み、血管の浮き出具合、傷跡など、一人ひとりまったく違います。それをどれだけリアルに表現できるかが、私の技術力にかかっています。間近で見ても気づかない程のパーツを作るため、人の手でじっくり時間をかけ生み出していく。卓越した技術はもちろん、アイデア勝負の仕事でもあると黒崎さん。「患者さんの負担を減らすには？」「よりリアルに作るためには？」と常にエピテーゼのことを考え、ヒントを見つけては、工房で試行錯誤を繰り返す毎日。

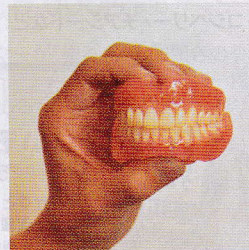
患者さんやその家族の「過去・現在・未来」を大切に考えながら作る。出来上がりを心から喜んでくれる姿が、大きな喜びや、患者さんのために「と進む力をくれるという。九州にエピテーゼを手がける工房がほとんどなく、諦めていた方も多いそう。様々な思いを抱えていた人たちにとって、黒崎さんの存在は大きな喜びとなるに違いありません。誰かの人生を変える瞬間を、黒崎さんは今日もその手で生み出している。



本物がそこにあるのかと驚いてしまうほど精巧なエピテーゼ。それでも「まだまだです。一生突き詰めて行く仕事ですからね。」と、さらに勉強と努力を積み重ねていく意欲に溢れた言葉が印象的だった。



機械はまったく使わない。人の手で作るからこそ、よりリアルな色味や、赤み、しわなどを作り出すことができる。「相談しながら一緒に作っていく過程も楽しんで欲しい」と黒崎さん。指は1本10万円〜。



工房では、本業である歯科技工士としての製作も行っている。歯科技工の専門学校に通っている頃は、入れ歯を作っていくのがとにかく面白かったそう。